

日本地球電気磁気学会会報(第111号)

1986年5月19日

日本地球電気磁気学会

東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル

(財) 日本学会事務センター内

電話 (03)817-5801

I 第79回総会ならびに講演会

第79回総会ならびに講演会は、4月9日から11日までの3日間、東京工業大学のお世話で、東工大(大岡山キャンパス)で開催された。10日午後には、平尾邦雄会員を座長として宇宙科学研究所の上杉邦憲氏による「彗星探査ミッション」と清水幹夫氏による「彗星の紫外観測」の特別講演が行われた後、下記の次第で総会が開かれた。(会員数535名、出席者数と委任状で成立)。

- (1) 議長 福西運営委員
- (2) 大会委員長あいさつ 河野大会委員長
- (3) 運営委員会報告 浜野(庶務), 松本(JGG関係), 両運営委員
- (4) 会長あいさつ 小嶋会長

(5) 田中館賞授与

第102号 山越和雄会員

『深海底堆積物中の宇宙物質の研究』

第103号 兵頭政幸会員

『縁型システム理論による堆積残留磁化の研究』

(6) 田中館賞審査報告(小嶋会長)

今回は2件の応募がありました。第102号田中館賞受賞者の山越和雄氏は、宇宙塵の研究という、やや地味ではありますが、太陽系起源の問題に有用な手がかりを与える研究です。山越氏の長年にわたる努力が高く評価されました。第103号兵頭政幸氏の研究は、このところ世界的にもやや沈滞気味の岩石磁気学界に、久々のヒットを放った力作と評価されました。堆積物残留磁化獲得機構の解明に大きな前進をもたらしました。今後も会員の皆様の優れた研究を、積極的に田中館賞に御推薦くださるようお願いします。

(7) 議 事

(i) 決算報告および予算案

九橋運営委員より提案され、原案通り昭和60年度決算報告を承認、昭和61年度予算案を可決した。→Ⅱ項をごらん下さい。

(ii) 次期総会・講演会開催地

前回総会で決った通り、第80回総会・講演会は、九州大学のお世話で61年10月14日～16日の3日間、福岡市内で開催されることを確認。→Ⅲ項をごらん下さい。

(iii) 次々期総会・講演会開催地

伊勢崎運営委員より第81回総会・講演会(62年春)のお世話を、千葉大学にお願いしたい旨の提案があり、同大学の木下会員より引受ける旨の発言があったとの報告が小嶋会長よりなされ、可決された。

(8) 学会名称検討について

小嶋会長の私的諮問委員会である学会名称検討委員会の使命と活動について、同委員会の長をも兼ねる小嶋会長より説明があった。その後学会名称問題について活発な意見が交換された。6月頃、名称検討委員会から会長に答申書が提出され、その内容は次の運営委員会で検討される予定である。

Ⅱ 決算報告および予算案

昭和60年度決算

収入の部

支出の部

科 目	60年予算額	決 算 額	科 目	60年予算額	決 算 額
会 費	4,706,800	5,028,545	管 理 費	2,220,000	2,234,382
正 会 員	3,810,000	3,827,000	業 務 委 託 費	1,800,000	1,842,334
学 生 会 員	200,000	213,000	通 信 費	160,000	143,760
海 外 会 員	296,800	388,545	印 刷 費	50,000	66,250
賛 助 会 員	400,000	600,000	会 合 費	40,000	38,438
出 版 助 成 金	8,600,000	5,850,000	旅 費	150,000	117,800
予 稿 集 売 上 代	1,000,000	919,500	雑 費	20,000	25,800
利 子 収 入	200,000	276,722	事 業 費	11,430,000	9,048,671
小 計	14,506,800	12,074,767	会 誌 分 担 金	8,780,000	6,150,000
前 期 繰 越 金	1,209,546	1,209,546	送 付 費	550,000	671,230
合 計	15,716,346	13,284,313	会 報 印 刷 費	150,000	132,130
			送 付 費	150,000	145,800
			大 会 開 催 費	800,000	939,511
			予 稿 集 印 刷 代	1,000,000	1,010,000
			予 備 費	100,000	0
			基 金 繰 入 金	400,000	600,000
			小 計	14,150,000	11,883,053
			次 期 繰 越 金	1,566,346	1,401,260
			合 計	15,716,346	13,284,313

〔特別会計〕

田中館賞

収入の部

支出の部

科目	決算額	備考	科目	決算額	備考
利子収入	23,232		賞碑代	99,660	
前期繰越金	555,365		次期繰越金	478,937	
合計	578,597		合計	578,597	

長谷川基金

収入の部

支出の部

科目	決算額	科目	決算額
利子収入	45,413	賞杯代	0
前期繰越金	860,030	次期繰越金	905,443
合計	905,443	合計	905,443

学会基金

科目	決算額	
一般会計より繰入	600,000	注 利子は一般会計へ繰入
繰越金	4,250,000	
合計	4,850,000	

昭和61年度予算

収入の部

支出の部

科 目	61年予算案	科 目	61年予算案
会 費	4,854,600	管 理 費	2,280,000
正 会 員	3,810,000	業務委託費	1,850,000
学 生 会 員	175,800	通 信 費	160,000
海 外 会 員	268,800	印 刷 費	60,000
賛 助 会 員	600,000	会 合 費	40,000
出 版 助 成 金	9,930,000	旅 費	150,000
予 稿 集 売 上 代	1,000,000	雑 費	20,000
利 子 収 入	280,000	事 業 費	13,090,000
小 計	16,064,600	会誌分担金	10,230,000
前 期 繰 越 金	1,401,260	発送費	600,000
合 計	17,465,860	会報印刷費	150,000
		発送費	150,000
		大会開催費	950,000
		予稿集印刷代	1,010,000
		予 備 費	100,000
		基 金 繰 入 金	600,000
		小 計	16,070,000
		次 期 繰 越 金	1,395,860
		合 計	17,465,860

Ⅲ 第80回総会・講演会のお知らせ

1. 期 間 10月14日(火)―16日(木)
2. 会 場 郵便貯金会館(福岡市中央区薬院4丁目14-52 電話 523-1100)
 (第2・第3会場に使用)
 九州エネルギー館(福岡市中央区薬院4丁目13-55 電話 522-2333)
 (第1・ポスターセッション会場に使用)
3. 宿泊施設案内
 各自、早目に申し込んで下さい。

	宿 泊 料 金	T E L (市外局番 092)	住 所
① はかた会館 (共済組会)	S 2,530, 3,520 T 4,620, 6,380	521-1361	中央区 薬院4-21-1
② 福岡YWCAホテル	S 4,800, 3,800(バス共同) T 8,000, 6,000(")	741-6485	中央区 舞鶴2-8-15
③ サンライフホテル1	S 5,200 T 8,200	473-7111	博多区博多駅 中央街4-16
④ サンライフホテル2,3	S 5,200 T 8,200	473-7112	博多区博多駅 東1-12-3
⑤ 博多グリーンホテル	S 4,900 T 7,000	451-4111	博多駅 中央街4-4
⑥ 博多第一ホテル	S 5,200 T 8,400	411-3501	博多駅東2-1
⑦ セントラルホテルフクオカ	S 5,000 T 8,200	712-1212	中央区渡辺通り 4-1-2
⑧ 博多東急ホテルアネックス	S 7,000～ T 12,000～	713-7111	中央区 天神1-10
⑨ 郵便貯金会館 (講演会場)	S 4,000 T 5,000～	523-1100	中央区 薬院4-14-52

- ① 博多駅からバスで約15分 学会場まで徒歩5分
- ② 博多駅からバスで約15分 学会場までバスで15分徒歩5分
- ③～⑥ 博多駅から徒歩2～3分以内 学会場までバス約15分徒歩5分
- ⑦ 博多駅からバス約10分 学会場までバス約5分徒歩5分
- ⑧ 博多駅からバス約15分または地下鉄約10分 学会場までバス10分徒歩15分
福岡空港から博多駅までバスで約15分

IV 新 入 会 員

運営委員会で承認された新入会員は次の通りである(*印 学生会員)

新入会 田 信 行(成田園芸高校)	金 子 康 江(海上保安庁)
新入会 佐々木 晶(東大理*)	西 洋 祐(東工大理*)
新入会 浜 嶋 多加志(東工大理*)	藤 井 崇(東工大理*)
新入会 星 雅 之(東工大理*)	松 島 政 貴(東工大理*)
Byung-Ho Ahn (Korea)	

V 学会名称検討委員会報告

学会名称検討委員会は、昨年暮れに発足（会報第 109 号参照）以来、これまで4回の会合を開催し、名称問題につき、いろいろな角度から検討を加えてまいりました。第3回委員会までの結果は、中間報告として3月に皆様に配布いたしました。その後、春の学会の折に第4回委員会を開催し、さらに具体的な名称もあげ議論を行いました。学会名称については、学会の性格を強く打ち出すべきだ——たとえば現行の名前のように——とする意見（固体地球電磁気関係）、反対にあまり特定の分野だけ焦点を合わせた名前は避け、より広い研究者を対象とする名称がよい、とする意見が対立いたしました。しかしさらに突っ込んだ意見交換を行い、どちらの立場の委員も一応我慢のできそうな名前を探す努力を行い、少しずつ意見の収斂の方向に動きつつあります。

次回委員会（5月2日）では、こうした、双方がなんとか歩み寄れる名称を2-3個程度に絞る作業を行い、さらにまた、この案についての会員の皆様の御意見をよりよく反映するためには、どのような方法が良いか検討し（前回の委員会では、アンケートは形式に流れ実質的成果が期待しがたい、という結論に達しました）、それらの結果を本委員会最終案として運営委員会に答申する予定です。重ねて本件につき皆様の率直な御意見を本委員会にお寄せくださるようお願い申し上げます。

（小嶋 稔）

VI 連絡事項一般

地球電磁気学研連

地震学研連より地震予知小委員会委員の推薦依頼があり、力武常次（日大文理）・河村 謙（気象庁地震火山部）・行武 毅（東大震研）の3氏を推薦した。

MAGASAT 後の地磁気衛星

IWGMFS（International Working Group on Magnetic Field Satellites）で人工衛星による地球磁場測定を実現するための努力が続けられている。現在もっとも有望視されているのはUS Naval Oceanographic Officeによるスペースシャトルを利用したGASP計画（Geomagnetic Autonomous Shuttle-Launched Probe：またはGet-Away-Special Program）である。スペースシャトルから打上げようというもので、システムの間発にはNORDA（Naval Ocean Research and Development Activity）が当たっている。フラッグシップ磁力計とプロトン磁力計の組み合わせで、1989年までに高度200kmの極軌道に打上げたいという計画である。

本年の国際学会（固体地球関係）

1. Eighth Workshop on Electromagnetic Induction in the Earth and Moon

1986年8月24日-31日, Neuchatel (スイス) IAGA, スイス科学アカデミー主催
2. International Symposium on Space-Time-Structure of the Geomagnetic Field

1986年9月22日-27日, Wittenberg-Lutherstadt (東独) IAGG, 東独科学アカデミー主催

GEOTAIL計画(西田篤弘)

GEOTAIL計画は、地球の尻尾をさぐろうとする計画である。地球の夜側には何千万kmという長さの雄大な尻尾(磁気圏尾部)が存在する。この尻尾は太陽風と地球磁場の相互作用によって作られたもので、骨組みをなしているのは地球の磁力線である。磁気圏尾部は太陽風が地球の磁力線を無理やりに引張って作ったものだから、そこにはエネルギー(磁場のエネルギー)が蓄えられており、磁力線が縮む時には、解放されたエネルギーによってイオンや電子が加速される。オーロラを光らせる電子や放射線帯(ヴァンアレン帯)を構成する粒子は、尾部の中でエネルギーを得てから地球に向かって流れてくる。

GEOTAIL衛星の主要な観測目的は、磁気圏尾部の中でイオンや電子が加速されるメカニズムを詳しく調べることである。加速が特に頻繁におきるのは尾部の中のどのあたりだろうか。その領域はなぜ加速の発生に適しているのだろうか。加速は時々爆発的に成長するが、これはどのようなきっかけによって起きるのだろうか。尾部の中にはいろいろな波動が存在するが、波動現象は加速とどのような関わりを持っているのだろうか。

GEOTAIL衛星の軌道は、始めの一年半には月の軌道より遠い領域を調べるため、月スウィングバイの技術を用いて遠地点を約80Re(Reは地球半径)から250Reの間に分布させる。後半では月の軌道よりも近い領域で尾部の構造や時間変化を詳しく調べるため、軌道を8~20Reに下げる。後半の期間には磁気圏と太陽風との境界領域も良くカバーすることができるので、磁気圏の尾部が作られそこにエネルギーが蓄えられる過程の研究も行うことができる。

GEOTAIL衛星はISTP(International Solar Terrestrial Physics) Programの一翼を担うものである。ISTPは、アメリカのNASA、ヨーロッパのESAと日本の宇宙科学研究所とが力を合わせて、太陽風と磁気圏に関する研究を共同で推進しようとするもので、数機の衛星群で構成される予定である。

GEOTAIL衛星の打ち上げは1991年3月にスペースシャトルで行う予定である。ISTP計画に参加する各々の衛星の観測データは公開して共同研究を推進することになっている。従って、米、欧の研究機関と同程度以上のペースで大量のデータを敏速に処理し、解析をすすめていかなければならない。このためには、高速の演算装置及び大容量記憶装置と共に、宇宙研とNASAを結ぶデータ回線と、宇宙研と参加研究者とを結ぶデータ回線を整備する必要があると考えている。

悲報 佐藤佳明 会員（東北工業大学助教授）

佐藤佳明会員（東北工業大学助教授・理学博士）は去る昭和60年11月20日、急性心不全のため逝去されました。享年47歳。同氏は昭和38年3月東北大学理学部天文及び地球物理学専攻修士課程を、昭和43年3月に同博士課程を修了、同年4月に東北工業大学通信工学科講師に就任され、以後、電離圏物理学の研究に専念されてきました。近年は、ドップラー効果、ファラディ回転を利用した電離圏の研究——HFドップラー観測グループ（世話人、小川徹京都大学教授）の一員として活躍されていました。ここに慎んで哀悼の意を表します。